

競馬がますます  
楽しくなる

続 ファンにやさしい

# 馬学講座

第45回

## 馬における オスとメスの違いとは②

講師

楠瀬 良さん

公益社団法人  
日本装蹄協会の  
常務理事



案内人：辻谷秋人  
text by Akihito Tsujiya

生後半年くらいで行動にも  
性差が見られるようになる

さて、前回から引き続き、男馬と女馬との違いについてである。お話を伺うのも、前回同様、日本装蹄協会の楠瀬さんだ。

前号では主に体格や走る能力の差について扱ったが、今回は精神面のことを伺うことにする。

「行動上に性差が現れるのは生後半年くらいで、このころはオスはオス同士、メスはメス同士で遊ぶようになります。遊び方にも違いが出てきて、メスは体を舐めめあたり軽く噛んだりしますが、オスは走り回る、追いかけて回すといった遊び方になるのです」(楠瀬さん)

これがもう少し成長して育成期に入ると、また興味深い現象が見られると、楠瀬さんは言う。

「放牧地ではメスは特定の仲間と一緒にいることが多くなりますが、オスはそんなことはないんです。特定の仲間というよりは少ないですね」

特定の仲間といつも一緒にいるということは、その仲間への依存性が高いことを意味しているのだが、なぜ牝馬は仲間への依存が強くなるのだろうか。

楠瀬さんは、牝馬が恐怖感を持ちやすいことも一つの要因だと考えている。

牝馬は、知らない場所、知らない人に不安を感じやすい

楠瀬さんは以前、馬を知らない場所に連れていき、知らない人と一緒にいさせたとときの馬の様子を観察して心拍数を測るのだが、牝馬にはほとんど変化がないものの、牝馬は明らかに落ち着きがなくなり、心拍数も上がった。知らない場所、知らない人に不安を感じているのだ。

「そこで隠しておいた鏡の覆いをとり、馬に見せます。オス、メスともに心拍数は下がりますが、その下がり方は明らか

にメスのほうが大きい。落ち着くんですね」

馬はこのとき鏡に映っているのが自分だとは思っておらず、別の馬だと認識している。仲間のいないところで不安に感じていた牝馬は、いつもの仲間ではないけれども、それでもとにかくほかの馬が来てくれた、自分だけではなくなったというだけで、ある程度落ち着きを取り戻すのだ。

「牝馬は見知らぬ場所、初めての人に強く不安や恐怖を感じると考えられます。実際にそういった場面はよく見られます。典型的なのが競走馬がトレーニング・センターに入るときに受ける健康チェック、いわゆる入厩検査です。このときに落ち着きをなくし、検査をする人を手こずらせるのは、たいてい若い牝馬です。初めて連れてこられた場所で、知らない人に取り囲まれて、強い不安と恐怖を感じているのでしょう」

入厩検査だけではない。彼らが初めて迎えるレースもそうだ。競馬場という空

間やレースの雰囲気は、それまで馬たちが過ごしてきた環境とはまったく異質なので、牝馬といえどもさすがに影響は出るが、牝馬にはさらに顕著に表れる。新馬戦での牝馬はとくに落ち着かない傾向があるのは、そのためだと考えられるのだ。

JRA



成長期に入った牝馬は、放牧地において、他の仲間の牝馬と一緒にいることが多い